



## 夏休みこそ本質的な学習を

1年生は「西高生になる」 2年生は「勝負の2年生」 4月から100日はどうでしたか。

夏休みが始まります。

以下の3点を意識して、学習・補習・文化祭準備・部活動等に充実した夏休みを過ごして下さい。

(1)毎日の「自学自習時間」を確保する。そして「何をいつまでに」を意識する。

- ①「My 時間割」を作る。→ 絶対やりたいこと、できればやりたいことをリスト化。優先順位を考える。取り組む順序を決める。  
「何をいつまでに終わらせるのか」期限を明確に。

②苦手分野を毎日勉強。

③英単語は復習とともに先取りしてやってください。英語は文理必須、しっかり復習を。

部活や行事などで忙しい毎日ですが、日々の学習なしでは学力向上は望めません。すき間時間（隙間時間：電車などの通学時間、学校での休み時間など）を活用するのはもちろんですが、特に英語や数学の問題にじっくり取り組むために、まとまった時間を作り出してください。食事の前、寝る前、朝早くなど、生活スタイルによってタイミングは違うと思いますが、毎日固定すると続けやすくなります。時間をしっかりかけた学習をしましょう。その際、「何をいつまでに終わらせるのか」という「スパンをしっかり意識」しましょう。

(2)「目標」を高く持つ

- ①大きな目標と小さい目標を立てる。→ 模試の成績でもよし、勉強内容でもよし。志望大学でもよし。達成感を味わえる目標を。

これから目指す大学入試で大切なのは、「行きたい大学」「行くべき大学」を高く掲げることです。もちろんやりたいこと、学部、学科もそうですが、熊谷西高校に通っている以上、どの大学も目指す資格があります。自分がどこまで伸びるのかにチャレンジするのも、大学受験の大きな意義のひとつです（熊谷西高校生は目標とした大学の分だけ伸びます）。「この大学を志望しているんだ！！」と臆せずと言ってみてください。同じような仲間がきっといるはずですが、そういう仲間をお互いに見つけて、時には励ましあいながら切磋琢磨してください。我々も皆さんの志望校への頑張りを全力でサポートします。

(3)大学入試で求められるものを「意識した学習」を！

現在の大学入試は、筆記試験の正答力だけでなく、より多様な能力を問う内容へ変化しています。例えば、最近増えている「総合型選抜」では、多くの大学がディスカッションやプレゼンテーションを課しています。

例えば、ある国立大学の総合型選抜においては、

「評価の対象」を「なにを行ってきたか」という過程・「なにを身に付けたか」というアウトカム・「なにをしたいか」という企画力の3点に挙げ、

**第1段階選抜**：聴き取り，読み取り，書き出す力・講義を受講後，キーワードの概説とレポート

- ・ 大学の講義への興味・関心
- ・ 難易度の高い内容を捉えようとする意思，知識，理解力，思考力
- ・ 課題解決型記述問題（高校前半の学習内容までの利用）（高度な記述問題）
- ・ 思考力／判断力／表現力／企画力

**第2段階選抜**：対話する力，協働する力・適性検査（数・理・英）：高校前半までの学習内容

- ・ 学びの計画書作成，グループワーク ・ 個人面接 として、

また、ある国立大学では、

「900（共通テスト）＋600（以下の内容）」とし、

- ・ 課題解決型記述問題（150）
- ・ グループワーク（250）
- ・ 5名程度のグループでディスカッション・プレゼンテーション、自己評価
- ・ 個人面接（200） 主体的で深い学びへの聴く，話す <10分程度>
- ・ 共通テスト（900） とするなど、**一筋縄ではいかない対策**が求められます。

合格するためには、これまでのような国語や数学といった教科の学力で測られる入試の点数だけでなく、議論や発表のスキルを身につける必要があります。そして、発表できる中身があること、**つまり、前提となる自分なりの考えをしっかりと持つことや、それを裏付けるような高校生活の様々な経験や努力も必要です。**この傾向は今後も加速していくことが確実です。

そうした流れを受けて、高校の教育も変わりつつあり、高校の3年間でどのような経験をして、どのように学んだのかというプロセスを重視するようになりました。これからの大学入試に対応する力は、短期間の詰め込み型学習では身につけません。**1、2年生のうちから少しずつ蓄積していくしかなく、実質的には大学入試対策の前倒し傾向が高まっているとも言えます。**

ただし、従来型の受験勉強を早くから始めないと間に合わない、という意味ではありません。

なぜ、大学が入試のやり方を変えてきているのか。それは、大学が求める人材が変わってきており、その理由は大学の先にある社会が求める人材が変わってきているからです。

世界がより複雑な構造になり、これまで以上に正解がわからない、あっても一つではない社会を生き抜く人材を、従来の出題方法ではもはや判別できなくなりました。

**今の大学入試は、「高校生活、あるいはそれ以前の経験の中で、社会が求める力を少しずつ身につけていきましょう、それを大学入試で見ますよ。」という意味なのです。**

では、これからの社会で必要な力とは何でしょうか。いろいろありますが、あえて一つ挙げるとすれば、「言葉にする力」だと思います。

これまでの「当たり前」が「当たり前」ではなくなる社会になっていき、模範とする生き方も定かではない中で、**生徒自身が「これはどうなんだろう」と立ち止まり、その疑問や自分なりの考えを文字や言葉にして、他者に見える形で言葉にすることです。**自分の思いや考えを言葉にしないままだと、何か不都合なことが起きてもごまかしが効きますが、言葉にすることで、自分で言ったことは責任を取ろうと、具体的なアクションを起こすようになります。また、自分の考えの中身を客観的に見つめられますし、周囲の理解や協力も、言葉にすることで初めて得ることができます。

さらに、**日々の学習に関しては、本質的な理解をしながら、自分の頭で考えながら勉強することです。圧倒的な知識量が必要な英語や古文の単語や文法などは、ひたすら暗記したり覚えるしかないものがあります。基礎をなす部分であることが多いので、できる限り早めに取りかかりインプットを終わらせましょう。しかし、数学や理科であれば公式の丸暗記や解法のパターンを覚えるだけではだめで、仕組みを理解する必要があります。日本史や世界史であれば歴史の流れに沿って因果関係や地理的な背景を考えなければなりません。英文や現代文などは多くの文を読んだり、新聞などからの知識がより深い理解につながります。それが思考力を高めます。**

どうか、勉強時間を増やすだけでなく、問を考え抜く、そして質の向上にも取り組んでください。